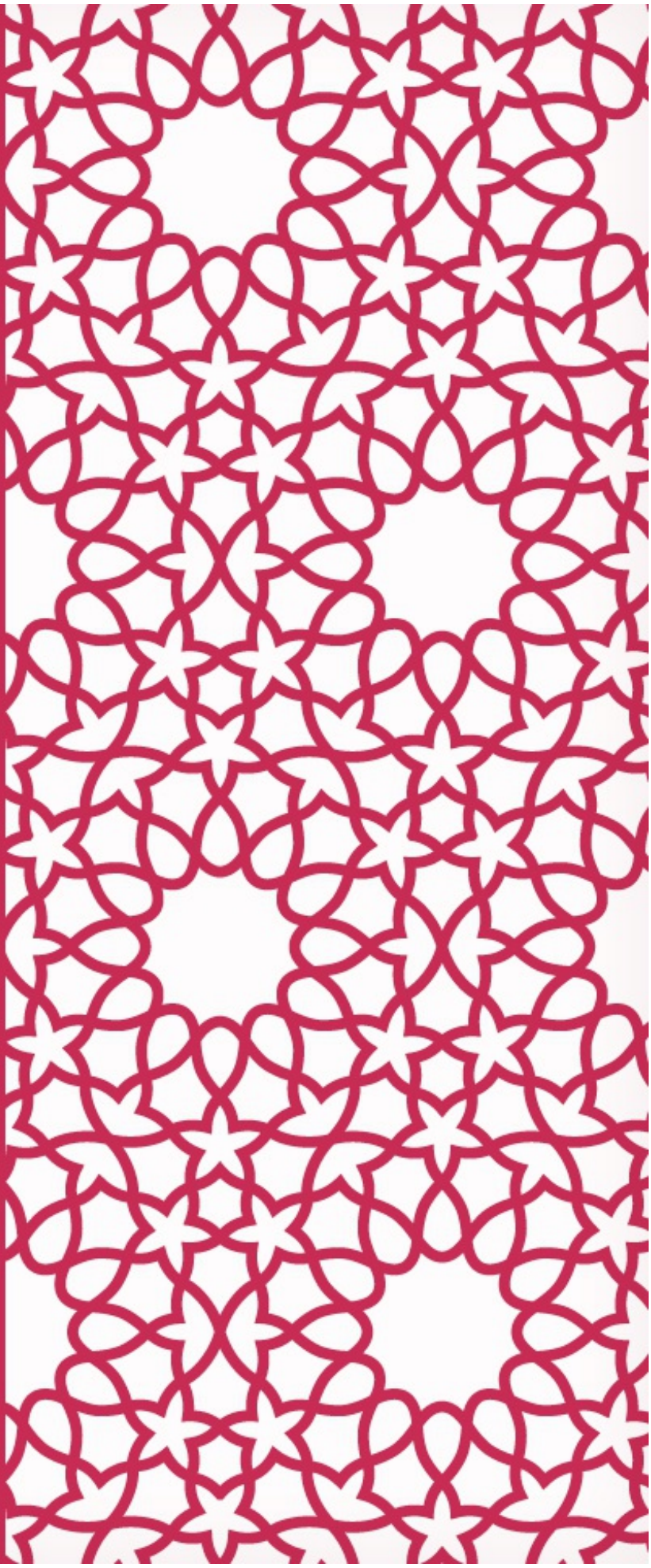
価値組という生き方

長谷川こうせい



価値観を最大の意思決定機関として行動する新しい生き方をおススメする本。価値組とは、マネーゲームで勝ち組、負け組と区分けされるようなことはなく

目次

価値組という生き方

価値組とは

入ってくる金銭の多寡で勝負をしない

飽き飽きとしたマネーゲーム

残りの99%にならない

価値組としていきるための16の法則

１　お金に価値を与える「価値測定器」を持とう

２　時は価値なりと考えよう

３　生命の価値を知ろう

４　出会いを大切にしよう

５　自分自身を大切にしよう

６　他人に価値を押し付けない

７　ワーキングプアを定義する

８　自分の本質を見極める

９　いつでも夢を描く

10　良いきっかけを与えてくれる存在を大切にする

11　追われる立場から追う立場へ

12　ムダを知る

13　価値シフトを行う

14　自立して生き抜く

15　未来を変える

16　価値を共有する

最後の法則

おわりに

価値組とは

入ってくる金銭の多寡で勝負をしない

　よくありがちな経済の豊かさや地位や名誉といった基準で人を判断するという行為。これは、「勝ち組」、「負け組」といった人間を分ける、惨めな争いである。

　人が生きるのに勝ち負けはない。というよりは、優劣をつける必要がない。確かに人は生きている過程の中で、勝つときもあれば、負ける時もある。勝ち負けを分けるような勝負がある場合には、当然、勝ち負けはついてくる。運動会の100ｍ走やテストでの結果などで優劣を決めることは、小学校の頃から既に経験していると思う。ただ、それは、生きることとまったく関係がないと言っても過言ではない。100mを速く走る人の人生が良いのか、或いはビリで走る人の人生が良いのか、勝負事では、人の人生は決まらない。

　人は大人になるにつれて、次第に、おカネ、地位、名誉といったもので勝負をしたがる傾向にある。特に、1990年頃の世界的なITバブルの時代を境に、巨額な資金を持つ人たちなどの富裕層を勝ち組と呼び、対照的に貯蓄もできないくらい生活が困窮する人たちを負け組と呼ぶことが世間で浸透した。その結果、近年、人々は、このような金銭的視点から、勝ち負けを分類されるといった社会的風潮にある。入ってくる金銭の多寡で、勝負をし続けている。

　歴史を遡ると、世界の各地で階級制が存在していたのは、読者の方もご存知のことだろう。しかし、この階級制でさえ、市民運動や革命などにより、日本を含め、アメリカ、ヨーロッパ、オセアニアなどのいわゆる西側の先進国では崩壊した。貴族、華族などは廃止され、みんなが平等になったはずだった。

　人間の性（さが）なのか、人は、このような階級制を嫌う傾向にありながら、その一方で勝ち組、負け組といった言葉を使って、上下関係をうまく説明しようとする。

　資本主義社会の生み出す格差の拡大によって、このように入ってくる金銭の多寡での勝ち負けがはっきりと目に見えるような構図が広まってきた昨今の世界情勢。その中で、人々は必死に次の3つの行動を取ろうとする。3番目は、必死ではないかもしれないが。

1. 勝ち組になろうと、おカネ、地位、名誉を得ようと必死の努力をするタイプ
2. 「負け組にならない」ように必死に生きるタイプ
3. 諦めてしまうタイプ

　特に、2の「負け組にならない」ように必死に生きるタイプ行動をとる場合が、圧倒的多数である。昔か

ら、中流の生き方を望む人々は多い。しかし、それはあくまで「負け組」が存在することにより、自らを肯定する行為にしか過ぎないので、やはり、勝負をしているということになってしまう。人はどこか自らの心の中で、戦っているのだ。

　また、１の勝ち組になろうと、おカネ、地位、名誉を得ようと必死の努力をする人が多いのは、大手ネット書籍販売サイトであるAmzon.co.jpで、「勝ち組」と検索するとよくわかる。実に、1,462もの価値組になる為の書籍やDVDがヒットする。（＊2012年3月5日現在）

　3の諦めてしまうタイプのではどうだろうか。この惨めな戦いに敗れてしまった場合、人は収入がなくなり、働く意欲も出ないなど失意の念が強く出てしまい、悲しいことにホームレスになったり、自殺にまで追い込まれてしまったりするケースもある。一生懸命生きていても報われず、諦め、失望感で満ち溢れ、悲しい結末を迎えることもある。

　もしあなたが、この惨めな戦いに、飽き飽きしている、もしくは疲れてしまったのであれば、是非「価値組」になって欲しい。物事の「本質」を見極めることが、この「価値組」になる必要最低限の条件である。誰しもが「価値組」になることができる。それがこの「価値組」の最大のメリットだ。

　では、価値組とはどういった人たちのことをいうのか。それは先に示したように、物事の本質を見極める人たちのことを言う。本質を見極めるためには、それぞれの「価値観」をフルに活用する必要がある。

　勝負をしないで、自分の価値観のまま本質を見極めて生きる。それが、価値組の最大の目的とする。

飽き飽きとしたマネーゲーム

　リーマンショックやヨーロッパの深刻な金融危機。世界のワカモノが、このマネーゲームにうんざりして、デモをしている姿をテレビのニュースなどでも見られる。

　彼らは何を思い、何を伝えたいのか。ここでは、ニューヨークの金融街であるウォール街を例に取りたい。ニューヨークのウォール街を占拠したワカモノたちが、ニュースに映るシーンが昨年見られた。このワカモノたちは、We are the 99%（私たちが99%です）というサイトに影響されている人たちがいる。

　彼らの運営するサイト、http://wearethe99percent.tumblr.com/ において、次のような文章が記載されている。

> 「We are working long hours for little pay and no rights, if we're working at all. We are getting nothing while the other 1 percent is getting everything. We are the 99 percent.」

　これを日本語へ訳すと、「私たちは、例えどんなに働いたとしても、安い賃金で長時間労働をした挙句、権利を与えられることはない。1%の人間たちがすべてを得ている間、私たちは何も得ていない。そう、私たちはその残りの99%です」（＊筆者が、独自にわかりやすいように翻訳）

　確かに世界の1%しかいないと言われている富裕層で勝ち組と呼ばれる人々に比べれば、一般労働者は非常に安い賃金で働かざるを得ない。また、ほとんどの人々が、勝ち組ほどの社会的権利を得られていないのも実情だ。

　日本に目を移すと、一時期のホリエモンを象徴に、彼や彼の側近たちが起訴・逮捕される前に稼いだ金額は、果たして一般の日本人何人分の生涯所得になるのか計り知れない。時価総額だけ見れば、当時、ライブドアの株式時価総額のピークは約8,000億円[i]であり、国民一人あたりの生涯所得は、2.3[ii]億円であるから、実に約3,500人分の生涯所得の金額を、わずか数年間でかき集めたことになる。ホリエモンのような人たちは、一握りに過ぎない。しかし、彼らの下に、彼らから比べ、圧倒的に安い賃金制で働いている人たちがいなければ、この勝利の方程式が成り立つはずがない。

　彼らにとってみれば、M&A（企業買収）は、元々その会社で真面目に働いている労働者ごと買う「お買いもの」である。一生懸命に元々の会社のために働いている人たちにとっては、とんでもない話かも知れない。

　例えば、A社に努めていた社員さんは、A社の社運を担い、一生懸命日々仕事に明け暮れていた。サービス残業もしただろうし、利益に直接つながらない休日のゴルフ接待もしただろう。A社の成績が良くなれば自分の給料も上がるし、ボーナスも出る。A社で終身雇用され、少しぐらいの我慢をしたって、会社のために

頑張るのだと。

ところがある日突然、A社はZ社に買収をされる。今まで、A社のために一生懸命働いていたのに、もうすぐ幹部になることが決まっていたのに、M&Aのお陰で、幹部職にはZ社から派遣されてきた人間が就いてしまった。今まで家族のような暖かさに包まれていたA社の雰囲気はなくなってしまい、お客様との関係も今までは、「日頃から直接売上に結びつくことがないような雑用でもさせていただき、何かあった時にはご用命いただく」という日本古来の伝統的な商いとは違い、アメリカの徹底した冷徹とも言える売上至上主義になってしまった。お客様との密接な関係もなくなってしまい、お客様をただの商売相手としかみることしかできなくなってしまった結果、旧A社の売り上げは、伸び悩んでしまい、Z社は旧A社に見切りをつけて、Y社に企業を売った。

買収されたと思っていたら、「お買い物」をした人たちが儲からないと判断すれば、また他に転売される。まるでネットショッピングで商品を買って、飽きたらその商品をネットオークションで転売するかのように。

また、権利に目を移すと、アメリカの場合、日本と違って社会保障の充実度の格差が激しい。先進国で唯一構造的に無保険者を抱えている国[iii]であって、無保険者が病気になった場合、他の先進国の医療費の1.5倍もの費用を負担してきた。医療を受ける権利さえ与えられていない国民が多いのだ。

ロイター通信の2010年3月24日付「米医療保険改革法が成立、オバマ大統領が署名」という記事によると、オバマ米大統領は2010年3月23日に今後10年間で3000万人以上の無保険者を解消する医療保険改革法案に署名し、同法が成立したので、今後解消されていく傾向にある。

もともと、アメリカでは、「政府は原則として個人の生活に干渉しないという自己責任の精神[iv]」があったので、社会保障のあり方に影響を与えていたので致し方ないのだが、そのような時代背景の中で、1%の富裕層はいくら医療費が高額だろうが、民間の医療保険の掛金が高かろうが、お金を払えば医療を受けられるし、保険にも入れていて、高度な最新の医療をいつでも受けることができていた。また、最先端の医療のみならず、日本で見ればあたりまえの「普通の医療」を、この一部の富裕層はいつでも受けられていたとも言える。そしてその逆を言えば、そうでない人たちがたくさんいるということだ。

彼らが、残りの99%に権利はないという主張は、このような医療を受ける権利も含めて、1%の富裕層が得ている「おカネ」や「医療」の富や権利は、安い賃金で様々な権利を犠牲にしながら働いている人たちがいるからこそ成り立っているのだぞと不満の表れかも知れない。

そして、「政府は原則として個人の生活に干渉しないという自己責任の精神」のわりには、リーマンショックから続くウォール街の失敗に対して、政府が全ての国民からかき集めた血税を用いて、大手企業の失敗に公的資金を投入して、こうした「負けた勝ち組」を救い、更にはその公的資金の投入を受けた企業の人たちが、巨額のボーナスをもらうという摩訶不思議な出来事も起きている。

ＡＦＰ通信の2009年07月31日付「公的支援の米金融大手9社、収益上回るボーナス支給」の記事をご紹介する。

世界金融危機で前年秋に米政府から公的資金を注入された米大手金融機関9社が、業績悪化にもかかわらず多額のボーナスを支給していたことが、ニューヨーク（New York）州のアンドリュー・クオモ（Andrew Cuomo）司法長官の報告書で30日、明らかになった。

2008年の金融危機発生から9か月かけて作成された報告書は、各金融機関の業績と業務内容の調査結果をまとめたもの。これによると、一部の金融機関は2008年分の役員ボーナスとして、総額で同年の収益を上回る額を支給していた。

ゴールドマン・サックス（Goldman Sachs）の支給額は、08年収益の28億ドル（約2700億円）の約2倍に相当する48億ドル（約4600億円）。モルガン・スタンレー（Morgan Stanley）は収益17億ドル（約1600億円）に対し、44億7500万ドル（約4300億円）を支払った。両社は各100億ドル（約9600億円）の公的資金を受け入れている。

一方、250億ドル（約2.4兆円）の注入を受けたJPモルガン・チェース（JPMorgan Chase）は、収益56億ドル（約5300億円）に対しボーナス支給額は86億ドル（約8200億円）。それぞれ270億ドル（約2.6兆円）以上の損失を出したシティグループ（Citigroup）とメリルリンチ（Merrill Lynch）も、シティが53億3000万ドル（約5000億円）、メリルが36億ドル（約3400億円）をボーナスとして支払っていた。[v]

一般の市民からしてみれば、自分たちは医療費が高くて病院にも行けないで苦しんで働いているさなか、こうした人たちが自分たちの血税で救済され、更にはボーナスまでもらっているとくれば、怒りは爆発するのは当然だろう。もちろん、私たちの国でもJALは国の税金で救済されたが、中小零細企業の社長さんたちは、明日の従業員のお給料をどう支払うのかと悩み、苦しみ自転車操業状態になっている。中には、自殺、夜逃げなどというケースもあるだろう。

富裕層の人間たちの間だけでマネーゲームをやるだけならまだしも、マネーゲームをしている人たちの失敗したおかげで、マネーゲームをしていない一般市民をも巻き込む公的資金の注入や全世界の全ての人に影響を与えかねない世界的不況をもたらした。

ユーロ危機は、話せば長くなるので割愛するが、資本主義の根幹である信用創造というシステムがおかしくなったとだけ述べておく。

信用創造とは、例えばあなたが100万円銀行に預けるとする。銀行はそのうちの90万円をスーパーマーケットに貸し出し、そのスーパーマーケットがその９０万円を元手に野菜を仕入れて農家に銀行振込で支払えば、あなたの預金は100万円のまま、農家の方の預金口座にも90万円入っており、100万円が合計190万円として通帳には記帳されるという仕組みのことだ。元々100万円しかないのに、信用で取引をしているため、合計190万円になってしまう。

これ自体もマネーゲームだ。なぜ、元々100万円しかないのに、あなたと農家の方の口座に合計190万円記帳されているのだと感じるだろう。でも、きちんと流れを見れば、特に不思議なことでもないし、私たちの生活では一般的に行われていることである。

こうしたマネーゲームは世間一般的に行われており、このマネーゲームに勝つか負けるかで一喜一憂している人たちが多い。しかし、これにも飽き飽きとして、うんざりしている人たちが多いのも、We are the 99%をみれば明らかである。

---

[i] 日経BP社　ライブドア問題：時価総額に踊らされた経営者と投資家　2006/2/10付

[ii]独立行政法人労働政策研究・研修機構『ユースフル労働統計-労働統計加工指標集-2008』より著者が独自に加工

[iii] 厚生労働省　2009～2010年海外情勢報告

[iv]厚生労働省　2009～2010年海外情勢報告

[v] AFPBBニュース　http://www.afpbb.com/article/economy/2626556/4412689

残りの99%にならない

We are the 99%では、私たちは、残りの99%だと言っているが、実はそうではない。なぜなら、個人個人価値観が違う為、一概に全部ひっくるめてというやり方は強引すぎる。

あなたが何を感じ、何を目指すのかは本来自由であるべきだ。集団を結成して何かをなすためには、団結力を導くために大きなスローガンが必要になる。We are the 99%は、同じような境遇にある人たちが集まりやすくするためのスローガンであり、その呼びかけに答えるかどうかは、あなたの価値観が判断する。

あなたがもし、その一員であると感じるのであれば、参加すればいいだけの話であり、そうでなければやめておくというのが賢い価値の示し方である。

逆に、残りの1%に入ろうとするのかどうかもあなた次第だ。結局は、1%の人間と言われている富裕層がいなければ、資本主義社会は成り立たない。資本を投入してくれないからだ。

そしてマネーゲームに飽き飽きとしても、うんざりしても始まらない。結局は、自由といえども、現代の資本主義社会に生まれてしまったという運命がある以上、自らをどこに位置づけて生きていくのかというのは、自分自身でしか決めることができない。

価値組に入りたい人たちは、きちんとした自分の価値観を持ち続けること、そして世間に流されるのではなく、自分の判断で物事の決断を下すことが大いに求められる。つまりは、自立した個人として生き抜くことが最重要課題だ。

1%の富裕層の本質とは何か。残りの99%の本質は何か。あなた自身は、どちらにも分類されず、またその勝ち負けに翻弄されることなく生きていくにはどのような行動をしたらよいのか。もっと深く価値組について知る必要がありそうだ。

では、次の章でもっと価値組を実践してみよう。もちろん、価値組に入るか入らないかもあなた次第である。

価値組としていきるための16の法則

1　お金に価値を与える「価値測定器」を持とう

人は、価値を評価するのに、おカネを用いることがある。

　ＡＦＰ通信の2010年5月5日付のニュース[i]で、ピカソの絵画が史上最高額の101億円で落札されたと報じられた。落札者にとっては、101億円の価値があったのだろう。それは、落札者の「価値測定器」がそう判断させたのだ。

　これは決して悪い例ではない。むしろ、歴史的な芸術作品がそれくらいの価値があると判断されたと称賛すべきである。しかし一方で、あなたの「価値測定器」は、果たしてこのピカソの絵画にいくらの値段を付けるだろうか。

　今度は、違うケースを用いたい。2012年2月29日付の産経新聞の「義援金３４８５億円　海外からは１７５億円超」[ii]をご紹介する。

> 東日本大震災の被災者支援のため、日本赤十字社と中央共同募金会など４団体に寄せられた義援金が、総額３４８５億円に上ることが２４日、わかった。厚生労働省によると、９９．４％の３４６６億円が１５都道県に送金され、２８５７億円が各市町村を通じて被災者に配られた。

　日本で起きた未曾有の大災害に、日本国内からでもなく、海外からも多くの義援金が送られてきた。本当に、義援金を送っていただいた海外の方たちには感謝をしたい。そして、私たちは、日本人が結束力の高い民族であったと改めて実感をした。

　私たちも、街頭のみならず、銀行振込やポイントカードのポイントで寄付をするなど、様々な方法で募金をした。もちろん、しなかった、できなかった人たちもいる。

　あなたの「価値測定器」では、これの3,485億円をどう判断されただろうか。「意外と多いな」、「えっそんなもんなの」など意見は分かれそうだが、これらの義援金は、私たちの「善意」や「痛みを分かち合う精神」などの価値測定器が働いて行動した結果の現れだ。1億2千万人の人口で、これだけの善意が集まったのは、大変喜ばしいことだと感じる。

　更に違うケースを引用したい。できれば、私としては使いたくない記事だが、2012年2月29日付の産経新聞の「電通契約社員を逮捕　女子中学生を買春容疑　神奈川県警」[iii]という記事。

逮捕容疑は、昨年８月２３日午後、東京都新宿区のホテルで東京都東村山市に住む中学３年の女子生徒（１４）に現金３万円を渡し、わいせつな行為をしたとしている。

この男は、この少女のカラダに3万円という値段をつけて買った。あなたの「価値測定器」は、どう動くのか考えてみよう。

そう、「値段が付くような話」ではないのだ。特に注意しなければならないのは、未成年者の「価値測定器」は未熟であるということ。そして、それを悪用した男が下した判断とは、卑劣であって絶対にやってはならないことなのだ。

価値を評価するのに、おカネを用いることもあるが、人間としての「倫理性」や「道徳性」といったもののが、おカネを用いるときには問われるのは、この例をみれば明らかに重要である。なぜ、この記事を使ったのかといえば、未成年者の「価値測定器」は未熟だということを示したかった。

おカネに関わるエピソードにも、ピカソの絵のような直接的価値観が作用する場合と、他の２つの例で取り上げた善意・悪意、協調性、倫理性、道徳性といった間接的に作用する価値観がある。

こうしたおカネに与える価値観を測る基準を「価値測定器」と呼び、自分なりの基準を作ってみよう。

そうすることによって、人生という限られた時間の中で入ってくるおカネを貴重に使うことができる。限られた人生のうち、自分に入ってくる分には限界がある。だからこそ、それを増やす、増やさないで勝負をしても、人生のほとんどをおカネに縛られて過ごさなければならない。

自分らしさを大切にして仕事をした結果入ってきたおカネを、最大限自分の価値観で使ってみるというのが価値組の本位であり、すなわち収入となる金銭の多寡では勝ちも負けもなくなるのだ。

---

[i] AFPBBニュース　http://www.afpbb.com/article/life-culture/culture-arts/2723473/5715635

[ii] msn 産経ニュースhttp://sankei.jp.msn.com/life/news/120224/trd12022422370024-n1.htm

[iii] msn 産経ニュースhttp://sankei.jp.msn.com/affairs/news/120229/crm12022919370013-n1.htm

2　時は価値なりと考えよう

Time is Money（タイムイズマネー）から、Time is Value（タイムイズバリュー）に価値観の転換を行おう。

　Time is Moneyとは、文字通り「時は金なり」。時間は、お金と同じように大切で貴重であるという訓え・ことわざだが、これではおカネに縛られた考え方がいつまでたっても抜けきれない。

　Time is Valueは、「時は価値なり」。限られた時間をうまく使うのも、使わないのも私たち次第だ。

　私たち人間は、途方もないくらいの奇跡の確率でこの世に生きている。いくつもの奇跡を経て、いま私たちがいる。その大きな３つの奇跡をご紹介する。

　① 宇宙が誕生した奇跡

　② 生命が誕生した奇跡

　③ 人類が誕生した奇跡

　これら3つの奇跡は、その順番通りに起きなければ、現在に至っていない。

　一つ目の宇宙が誕生した奇跡は、ビッグバンという今から約137億年も前にさかのぼる[i]宇宙の爆発から始まった宇宙の奇跡。宇宙が誕生した経緯は未だ謎が多いのだが、何もなかったところ、或いはものすごく小さかった宇宙が、突然爆発し、宇宙が誕生した。また、観測により、宇宙が膨張していることは知られており、宇宙は今もなお大きくなっていっている。その膨張している先端の向こうに何があるのか、宇宙が誕生する前にはその空間には何があったのか。また、宇宙が誕生する前は、そこには空間すら全くない「無」の状態であったとも言われ、それがどういう状態なのか私たちの知る由もない。

　このような無限に近い、本当に天文学的な確率で宇宙は誕生した。次の生命の誕生に関する奇跡に移ろう。

　2つ目の奇跡である生命の誕生は、偶然と偶然と偶然×天文学的数字の重なりとも言える。宇宙が誕生して最初にできたと言われている原子は水素とヘリウムである[ii]。そこから化学反応を繰り返し、次第にそれぞれが結びつき、何億年、何十億年とかけて、星や銀河を形成した。地球が誕生したのは、約46億年前で、約38億年前にアミノ酸などが複雑な生命分子となり、生命が誕生したと言われている[iii]。

　太陽系の惑星の中で唯一地球のみ、生命体が今も活発に生き続けいる。地球が太陽を回る軌道からあと1個分内側でも外側でもずれていたら、この地球の生命体は誕生していなかったのではないかと、私は聞

いたことがある。偶然なのか、それとなるべくしてなったのかはわからないが、いくつもの偶然が引き起こし結果、生命は誕生した。

そして、3つ目の奇跡は、人類の誕生である。なぜ、人類だけが知的に他の生命体を凌駕し、これだけの文明を開化させることができたのか。これも謎だらけである。最初に言葉を使ったのは誰だとか、人間が進化してきた過程で誰が最初に火を使ったのか解明できていない。発明は往々に偶然の賜りものである。私が今書いている本は、コンピュータを使って、書いている（正確には、打ち込んでいるのだが）のだが、このパソコン自体、あらゆる文化の発展と発明の繰り返しでできたものである。

私たちがこうして生きていること自体が、奇跡なのである。そして、私たち人間は生まれながらにして、限られた時間しか生きることはできない。そう、だからこそ時間には「とても」価値がある。

こうした奇跡の繰り返しともいえる過去を経て得た「価値ある時間」は、おカネでは決して代替えのできないものだ。

価値があるからこそ、人間は時間を大切に使わなくてはならない。その価値をわかって初めて人は人生の短さを知る。時間に価値を与えて有効活用するのが、価値組の時間の使い方。

＊ これらの宇宙に関する情報は、私たち日本の誇るＪＡＸＡ（独立行政法人 宇宙航空研究開発機構）の提供する宇宙情報センターのホームページに詳しく解説されているので、一度ご覧いただくといい。

http://spaceinfo.jaxa.jp/

---

[i] JAXA　宇宙情報センター　宇宙がはじまる前http://spaceinfo.jaxa.jp/ja/before_the_history_of_the_universe.html

[ii] JAXA　宇宙情報センター　宇宙最初の星　http://spaceinfo.jaxa.jp/ja/first_star.html

[iii] JAXA　宇宙情報センター　地球生命　http://spaceinfo.jaxa.jp/ja/life_earth.html

3　生命の価値を知ろう

　ここまでお話ししてきたとおり、生命は奇跡と言える過去を経て誕生した。そして、人間は、出会いと出会いが重なり合って、子孫を残してきた。それ以外の生命も同じである。植物や動物もそれぞれの出会いがある。

　花が受粉させるのに小さな虫を使うように、一つ一つの生命と生命のつながりあいが、生命全体を支えている。

　食物連鎖という言葉があるはご存知だろう。私たち人間を含め動物は何かを食べなければ生きることは出来ないし、その食べるもののほとんどが自然の生命である。動物は自然の生命を食べなければ生きていけない。

　他の生命を犠牲にする食事の際に、日本では「いただきます」という。素晴らしい伝統であり文化であり、そして日本人の価値観の現れだ。生命の尊さを知らない限り、こういった言葉は生まれてこない。

　また、人間は、命を授かりながら生きて産まれてこないこともあるし、幼いころ命を落とすこともある。それは、植物も人間以外の動物もすべての生命に言えることなのだ。人間は、こうして命の尊さを学び、生命の価値を知る。

　こうした生命の価値観を失うと、人は戦争を起こしたり、いつまでも妬みが絶えず復讐として報復の攻撃をしたりする。戦争とは、生命の尊さを知らない、もしくはその価値を見失った人間の侵す、最大で最悪の犯罪である。

4　出会いを大切にしよう

あなたは何もないところから生まれてきたわけではない。父親と母親が必ずいる。その前には2組の祖父・祖母がいる。そして、それぞれが違う場所で生まれ、出会い、そして子孫を残してきた。

　つまり、あなたは、人類が誕生した時からずっと続いている「出会いと出会いの宝物」だ。

　あなたの両親が毎日口げんかをしている。「そんなに喧嘩するくらいなら、なんで結婚したんだ」と不思議に思うかもしれない。実際に、私の両親も面白いくらい喧嘩するし、私自身、二人の娘がいるが、様々な事情を経て離婚をしている。

　なんだかんだ言っても、自分が生まれるときに両親が出会っていなければ、私はこの世にはいない。元妻と別れてしまっても、私は二人の娘の母親（元妻）と出会っていなければ、娘たちはこの世にいない。

　私が、娘たちと遊んで二人の笑顔を見るたびに、この出会いと出会いのもたらす価値を思い知らされる。

　私の知人に子どもができない人がいる。私は友人（旦那さん）のことしか知らないが、二人は奥さんが子どものできないカラダであることを知って結婚をした。それが二人の場合は、最初からわかっていたのだが、夫婦になって初めて子どもができない状態にあることを知り、不妊治療に取り組む夫婦も多いだろうし、その成果がでないことも多いだろう。

　たまたま、あんたは子どもができたから能天気なことを言っているという批判は、甘んじて受け入れる。だが、ここで強調したいのは、出会いはとっても大切だということ。

　私はその知人に色々と助けられた。彼が私を助けてくれなかったら、自分の人生はどうなっていたのだろうと深く考えるときがある。

　そう考えると、決してある特定の二人の出会いのもとに宝物があるとは限らない。子を授かるすべての父親と母親は、何かしらの出会いと出会いが幾重にも重なりあって、子を授かることができる。

　だから、子どもはたった二人だけのものでもないし、それ以前に出会ったすべての出会いから、大きな影響を受けている。

　そして、出会いには勝ち負けがない。その出会いに価値を見出すかどうかは、あなた次第なのだ。価値組の人間は、すべての出会いに感謝し、そして価値あるものとして扱わなければならない。

5　自分自身を大切にしよう

　他人よりも、自分を大切にしなければならない。多くの日本人は、あまりこういった言葉に良い印象を受けないと思う。

　自己犠牲を伴うボランティア精神やある一定のコミュニティの一員として、自分よりも他を重んじなければならない時がある。ましてや、東日本大震災からようやく1年経過した時期だ。他人よりも、自分を大切にしなければならないと言われても、矛盾を感じることも多いだろう。

　「絆」という言葉が日本では広く使われている。日本漢字能力検定協会（京都市下京区）は１２日、２０１１年を表す漢字は「絆」と発表した[i]。また、ユーキャン新語流行語大賞に「絆」は選出されており[ii]、多くの人たちが絆を大切にしたいと感じている。

　大辞泉によると、絆とは、経つことのできない人と人との結びつきのことをいう[iii]。あなたがいなければ、あなたと誰かは結びつくことができない。だからこそ、他人よりも自分自身を大切にしなければならない。絆を守るためにも。

　あなたは、誰かの代わりに死ぬことはできない。誰かの代わりに傷つくこともできない。誰かの代わりに津波で家を失うこともできないし、福島第一原発事故の影響で誰かの代わりにあなたが避難生活を送ることもできない。

　例え、あなたが今避難している誰かと代わったとする。あなたは、避難生活を送ることになるが、果たしてそれで何になるのだろう。もしくは、誰かがあなたの代わりにあなたの仕事を明日からしろと言っても無理がある。

　例え、あなたが自己犠牲の精神に則り、仕事を捨て、被災地でボランティア活動をする。それがあなたの新しい仕事であり、あなたはそのボランティア活動がうまくいくようにしなければならない。

　ここまで話をしてご理解いただけた読者の方もいると思う。人間は、自分自身である限り、他人にはなれないのだ。

　あなたが私になるのも無理。私があなたになるのも無理。だからこそ、人間一人一人に価値がある。そして、自分自身を他人より大切にしなければ、他人を大切にすることはできない。

　あなたは価値のある一人の人間として、自分自身を大切にするべきである。そう、あなたの代わりになる人はいないのだから。

[i] 朝日新聞　「今年の漢字は「絆」　２位「災」、３位「震」http://www.asahi.com/national/update/1212/OSK201112120036.html」

[ii] 自由国民社ホームページ

[iii] Yahoo！辞書　http://dic.yahoo.co.jp/dsearch?p=%E7%B5%86&stype=0&dtype=0

６　他人に価値を押し付けない

ここまでの流れの中で、私はかなり「言い切り」の言葉を使ってきた。「でなければならない」とか「すべきである」といった具合だ。しかし、これらの言い切り言葉は、他人に価値を押し付ける言葉である。

　価値組とは、それぞれ自分自身の価値観を大切にしなければならないはずである。しかし、私は、「言い切り言葉」で価値を押し付けようとしている。

　矛盾。

　そう言われても仕方がない。そう言われるように書いてきたつもりだ。この価値組の16の法則の中で、１では、価値測定器といって自分自身で価値を判断する尺度というか判断基準というかそういった価値の測定には、おカネというツールは使うものの、その「おカネ使う意味」自体は、価値に大きく左右されると説明をした。

　そして、２～５では、あなた自身の置かれた状況を生命や時間、出会いといった分野で全ての人に当てはまるような状況を想定して書き進めてきた。ここまで書いた全ての言い切りの言葉に、あなた自身の価値観を当てはめて欲しい。

　価値観を押し付けると押し付けられた方は、どことなく嫌な感じがするものである。しかし、一方で価値観は他人の影響を受け易いものでもある。例えば、兄弟がいる場合、年上の兄、姉が好きだった音楽のジャンルやマンガなどは影響を受け易いと思う。

　日頃から価値観を鍛えなくてはならない。本当に正しいのか正しくないのを判断する価値測定器を養うためだ。

　もちろん、筆者の言っていることはワケのわからない話だとあなたが思えば、私の話は価値がないだろうし、「そういう考え方もあるなぁ」とか「言われてみれば確かに」とか少しでも価値組に興味を示して頂けたら、私としては至福の極みである。

　但し、価値は必ず自分で最終的に判断をする訓練をしなければ、価値組にはなれない。そして、価値を押し付けてしまうと、それは他人の自由を侵害するので、あまり望ましくはない。

　矛盾が生まれるときに、人間は価値観を最大限に発揮するようにできている。ここで価値観を最大限に高めていただき、次なる章へと進んでいきたい。

7　ワーキングプアを定義する

　ワーキングプアという言葉が社会的用語として認知されてきた。どんなにどんなに働いても、一向に報われないというお話。2012年3月27日現在のわが国の最低賃金は、岩手、高知、沖縄の645円が最も低い金額だ[i]。

　これで実際に週５日、実労働毎日8時間で計算をしてみる（1年は、52週とする）。最低賃金で、上記条件で働いた場合、年収は134万円となる。年収200万円を超えるには、時給は962円。年収300万円を超すには、1,443円。全国の平均年収は、412万円[ii]なので、これを時給換算すれば1,981円になる。

　もちろん、残業代やボーナスは含まないので、前述のとおり、1日8時間、週５で働くという前提での数字だ。年収200万円以下の給与所得者は、平成22年度民間給与実態統計調査結果によると5年連続で1,000万人以上になり、働いている人の約5人に一人は年収が200万円以下になる。

　では、ここで質問だ。「ワーキングプアとはどのような状態か？」

　日本では、「ワーキングプアということ自体の確立した定義がないので、どこがワーキングプアとは統計的にはなかなか言えないものです」と厚生労働省の前田勤労者生活課長が発言している[iii]とおり、確立した定義はない。

　上記の最低賃金で計算をした年収134万円は、果たして多いのか、少ないのか。

　ひとつ例を挙げよう。30歳の独身男性がこの最低賃金で1日8時間、週５勤務で働き、且つ、協会けんぽ（社会保険）に加入、雇用保険、厚生年金を収めて、更に所得税、住民税を収めたとして、月収108,360円、もろもろ差し引かれ、月の手取りは、90,730円[iv]となる。

　アパートの家賃相場をgoo住宅・不動産サイトで調べてみた。上記、岩手、高知、沖縄では、岩手県盛岡市4.6万円、高知市3.5万円、沖縄県2.9万円[v]だった。

　仮に岩手県盛岡市に住んでいた場合、この男性の給与の約半分は家賃として支払われ、残りの4万円弱で生活をしなければならない。

　これは、果たしてワーキングプアと呼べるのか。AllAboutの「一人暮らしのお財布事情　男性編」[vi]で、月々の水道光熱費は6,200円という男性がいた。すると、食費等生活に回せる費用は3万8千円。携帯電話代を5,000円程度にすると、残り3万3千円。のり弁（290円）を毎日３食食べると30日で26,100円、残りが、５千円ちょっと。決して「経済的に豊かではない」と言える。テレビがあれば、NHKの受信料、1,345円も払わなければならない。たとえ、ＮＨＫをまったく見ないとしても。

ここで価値組の本質である「価値観」で測定し直してみよう。

あなたがもしこの状態の時、「生活が苦しい」と感じたなら、どのような行動に出るだろうか。もちろん、同じ岩手県盛岡市内の安い物件を探すというのも一つの賢明な手段だ。同市内で１番安い物件だと1万9千円という物件がある[vii]。引越しをすれば、これで、2万7千円も生活費が浮く。そして、自炊をすれば、食費が抑えることができる。何も26,100円ものり弁を買う必要はない。

また、仕事を変えるという選択もある。大手アルバイト求人情報誌、タウンワークのネット版（http://townwork.net/）で岩手県盛岡市、時給700円未満の求人情報を、2012年3月18日に検索をしてみた。

検索結果は０件だった。

次に、もっと上の時給で探してみると、700円の仕事が47件あった。

更に、ハローワークインターネットサービス（https://www.hellowork.go.jp/）で、同市の月収11万円以上の仕事を、同じく2012年3月18日に検索をしてみたところ、1,932件、同月収15万円以上で1,603件、同月収20万円以上でも1,063件ヒットした。

今度は逆のパターンで、「この生活が苦しくない」と感じたら、恐らく何もしないだろう。

更に追求すると、もしあなたが、上記ハローワークの求人で月収20万円の仕事を見つけて就職したとする。あなたには毎月20万円の安定した収入があり、年収は240万円。もしかしたらボーナスが出て年収が300万円台に乗るかもしれない。

そしたら、そこで「どんな生活を送るか」によって、まだまだ稼ぎが足りないと思うかもしれないし、それで十分だと思うかもしれない。年収200万円以下の人たちが1,000万人を超える中、あなたは「そうでない分野の人間になった」と感じるかもしれない。

しかし、価値組は「金銭の多寡で勝負しない」のである。

すなわち、厚生労働省の前田勤労者生活課長が言ったとおり、「ワーキングプアということ自体の確立した定義がない」ので、ワーキングプアだと思うのは、あなた次第であり、その金額の決定もあなたが最終的に下さなければならない。

ここで2つの点でこのワーキングプアの問題を捉えて欲しい。

・その仕事は、あなたにとってどんな価値があるのか。

・その生活は、あなたにとってどんな価値があるのか。

どうしてもその仕事をしたくてしているのであれば、それはとても価値のある仕事だし、そして、その仕事で得られる収入でとても素晴らしい生活が送れているのであれば、それはとても価値のある生活だと言える。

価値のある仕事、生活を送るために、価値組は全力を注ぐ。そうすれば、自ずと仕事も生活も変わるはずである。

ゆえに、価値組に、ワーキングプアは存在しないのだ。

---

[i] 厚生労働省　平成23年度地域別最低賃金改定状況
http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudoukijun/minimumichiran/index.html

[ii] 平成22年度　民間給与実態統計調査結果http://www.nta.go.jp/kohyo/tokei/kokuzeicho/minkan2010/pdf/001.pdf

[iii] 平成19年度第3回目安に関する小委員会議事録　http://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/07/txt/s0731-3.txt

[iv] 645円で、21日出勤、実労働168時間。健康保険税5,575円、厚生年金9,683円、雇用保険650円、所得税330円、前年度の住民税16,700円を12均等割で計算。

[v] goo 住宅・不動産　家賃相場　http://house.goo.ne.jp/chiiki/souba/

[vi] AllAboutの「一人暮らしのお財布事情　男性編」http://allabout.co.jp/gm/gc/72074/#1

[vii] お部屋探しならHOME'S賃貸　http://rent.homes.co.jp/iwate/city/morioka-city/result-30-0-fee_combo.html

8　自分の本質を見極める

あなたが一度きりしかない人生の中で、本当にやりたいことはなんだろうか？

　この問いに、今一度あなたの思っている素直な気持ちを当てはめて向き合って欲しい。本当にやりたいことをやって生きているのか。それとも、嫌々今の人生を送っているのか。

　ワーキングプアの問題でも取り上げたように、価値組にワーキングプアは存在しない。この言葉に少し違和感がある読者もいらっしゃると思うので、これを更に深く掘り下げる。

　あなたの本質がどのようなものなのかをじっくりと検討した時に、あなたは「仕事に価値を見出す」のか、それとも「生活に価値を見出すのか」、それともその両方なのかを検討材料としなければならない。

　よく「お笑い芸人」の話がテレビで放映される。厳しい下積み時代、年収が100万円程度の生活を強いられ、もしくは無収入に近い状態の芸人の卵がいる。経済的な尺度から見れば、低収入で、ほんの一部の芸人しか華を咲かせることができない芸能界で、このような低賃金で頑張り続ける芸人の卵たちは、よく耐え忍んでいるなと思う方もいるはずだ。将来に対する「不確実性」が高すぎるのに反し、年収が低い。しかし、彼らのほとんどは、「人を笑わせる仕事」に自らの価値を置き、低所得で生活をしている。

　もし、彼らが「人を笑わせる仕事」よりも、快適な生活を求めた場合、当然仕事よりもプライベートが優先されてくる。プライベートでお金がかかるような場合には、それなりの仕事をしなければならない。このような低賃金での下積み時代を過ごしたくなければ、とっくに違う仕事をして暮らしているだろう。

　また、お笑い芸人で「人を笑顔にする仕事」がしたいのであれば、何も「お笑い芸人」でなくてもできる。例えば、ディズニーのバイトは、ほぼ時給1,000円以上になり、更に「お客様を笑顔にする」という使命を果たさなければならない。価値を少し移転しただけでも、違いが出てくる。

　また、「本当に人を笑わせたい」という価値観があなたの根本にあって、介護の仕事をしたとする。介護の現場で高齢者の方を、あなたの生まれ持った明るい性格でずっと「笑わせ続けることができる」可能性もある。介護を受ける方にとっては、とても幸せなことだ。

　つまり、お笑い芸人を目指すのであれば、あなたの本質は、「人を笑わせたい」、「テレビ番組や劇場等のステージの大勢の人の前でお笑いを提供したい」、そして「お笑いで将来売れっ子になりリッチな生活がしたい」などと複数の要素が絡み合っていなければ、あなたの価値観と目指す仕事がミスマッチする。そして、当然ながら、あなたの本質とその仕事があっていなければ、「嫌々お笑い芸人をする」という結果になる。

　本当にやりたいことをやれる幸せを感じることができなければ、あなたの価値は最大限発揮されていない

ことになるのだ。

　一般的な生活を送り、プライベートを重視したいので、仕事は正直なんでもいいという方もいらっしゃるはずである。普通に結婚して、普通に子どもができて、生活は決して楽ではないけれども、コツコツ節約して貯めたお金で年に1回は家族旅行をすることが、あなたにとって一番価値があることならば、あなたはそれをすべきであるし、誰もあなたを止める権利はない。

　自分の本質を見極めることにより、価値有る時間の配分が、おカネを稼ぐことに回るのか、それとも自分自身のやりたいことをやるために使うのか、それとも家族のために使うのか、それぞれのタイプによって異なってくる。

　「あなたが一度きりしかない人生の中で、本当にやりたいことはなんだろうか？」

　という質問は、あなた自身の本質を探し出すのに有効な問いである。自問自答して、あなたなりの答えを出して、価値を与え、価値のある時間を過ごして欲しい。そのためには、自分の本質を見極める必要がある。

9　いつでも夢を描く

夢」に年齢制限はない。いくつになっても、「夢」を描くことが重要である。そして、その「夢」が現実のものになるように、最善を尽くすのが価値組の生き方だ。

　もし、あなたが「めちゃくちゃリッチになりたい」という夢を描いたとする。当然、この場合おカネを稼ぐために、血眼になって働かなくてはならない。手っ取り早くおカネを稼ぐには、起業して会社を上場させて、IPO（新規株式公開）させることが良い方法の一つだと私は思う。

　価値組は、金銭の多い少ない（多寡）では、勝負をしないって言ったじゃないかと思う読者の方がいらっしゃってもおかしくない。だが、価値組は、別に勝ち組、負け組の構図で生きたい人を止めはしない。おカネを稼ぐことに価値があれば、どんどん稼ぐべきだ。

　「夢は、必ず叶うというのはウソであり、成功したものだけが言える言葉」だと思ったら、それは大間違いだ。

　夢は、叶えるためにある。

　例えば、あなたが今30歳で、今まで一度もサッカーをやったことがないのにも関わらず、サッカー選手になりたいという夢を描いた場合、これは無茶な話なのだろうか。仮に、サッカー選手になってオリンピックに出場したいといっても無理だろう。サッカーでオリンピックに出場するには、23歳までという年齢制限がある。しかし、サッカー選手としてはアマチュアで活躍できるかもしれないし、決して無理とは言えない。

　「いつか独立して、個人の居酒屋をやりたいんだ」

　「将来、何歳になってもいいから、世界1周のクルージングをしたい」

　といった具合に、現実のものになる可能性が非常に高いものは、大いに夢を描いて、追いかけるべきだ。少しくらい高い目標設定にしてもよい。夢は、価値の集大成だ。

　つまり、夢は、現実になるものでなければならない。夢を追うのであれば、それが現実となるものであることを立証する必要がある。

　どんなにどんなに努力をしても達成できないような夢は、あまり歓迎できない。非現実的なものは、価値ある時間を注力する意味がないのだ。例えば、30代半ばの人が、これからワーキングホリデーに行きたいと思っても、だいたいの国は30歳以下という年齢制限があり、ワーキングホリデーに行くことはできない。しかし、海外に住むこと自体には、年齢制限がないので、別の手段を用いて、夢を叶えることはできる。オリンピックのサッカーと一緒の話だ。

　しつこいようだが、価値組は、物事の本質を見極める。海外に住む方法としてワーキングホリデーという手段は使えないとしても、その他の手段を用いればいくらでもその夢を叶えることはできる。本質がわかれば、ハードルが高くても達成可能か、不可能か事前に判断できるはずである。

　夢を描くということは、描いた夢の中に、それを達成するまでの細かな道筋が示されているということだ。そして、いくつになっても、どんな状況でも夢を描いて、突き進むことは、価値組にとって重要なポイントとなる。

10　良いきっかけを与えてくれる存在を大切にする

価値組にとって、「きっかけ」はとても重要な行動要素だ。何かしらの影響がない限り、「きっかけ」は生まれない。

　先にも書いたとおり、人間の価値観は他人の影響を受け易い。良い意味でも、悪い意味でも。そして、その影響を受けて、初めて「きっかけ」が生まれる。人間が一人で「きっかけ」を見つけることは、至極難しい。自発的に「きっかけ」を作るのが難しい理由として、日常的な普段の生活というのはあまり変化がないことが挙げられる。

　普段の生活を思い起こして欲しい。仮に、あなたが、朝7時に起床して午前9時に出社をして仕事をしているとする。そして、日々の仕事をこなし、気づいた頃には夕方になり帰宅し、夕飯を食べ、テレビを観て、お風呂に入って寝る。そして、また次の日も同じことを繰り返し、休みの日には疲れきって家で過ごすか、あるいは友人とどこかへ出かけて食事をしたり、レジャーを楽しんだりする。そして、また仕事の日々に戻っていく。

　気が付けば、その繰り返しを何年も続けていて、それが日常的な普段の生活となれば、別に何かしらの「きっかけ」がない限り、新しいことにチャレンジしたり、またはあるものに価値を見出し、それに対して時間を費やそうとしたりは思わないはずだ。

　こうした普段の何気ない暮らしの中で、きっかけというものを自発的に見つけることは難しい。「当たり前のこと」を毎日しているので、「疑問」が生まれてこないからだ。

　矛盾が生まれるときに、価値観は大きく刺激されるとお話した。その何気ない普段の当たり前の生活の中で、何かに「疑問」を感じ、そして「矛盾」を感じることはあまりないと言える。

　ある日突然、「俺ってこんなことをしている場合なのか？」や「私は、こんな生活をしたかった訳じゃない」という半自発的ともいえるきっかけを作る矛盾は、自分の生活と別の生活を比較しなければ生まれない。つまり、何かしらの影響を受けて、今の生活とは違う自分の生活を想像することがなければ、こうした矛盾点は生まれない。誰かは、あんな生活をしている、誰かはあんなステキな人生を送っている。自分は、現状のままでいいのだろうかという疑問や矛盾は、比較によって呼び起こされる自らの価値観からの自分宛のメッセージだ。

　価値組は、勝負をしないと言った。しかし、比較は否定しない。比較して初めて価値観が大きく揺さぶられることは、ごく自然であるからだ。

　そして、社会的な責任であったり、人生の楽しみであったり、価値観が揺さぶられた時こそ、行動に出やすい。

「俺ってこんなことをしている場合なのか？」と思った時に、これが社会的な責任が主因だったとする。例えば、東日本大震災で苦しんでいる人たちがいる時に、のうのうと暮らしていていいのかという矛盾や疑問は、老若何女問わず感じた人は多いはずだ。人は、こうした社会的責任を果たすために、新たな目標や生活の矛先を変えることができる。

「俺ってこんなことをしている場合なのか？」と思った時に、これが自己に対する反省が主因だったとする。例を挙げれば、夜な夜なキャバクラに通って、遊び呆けていたとき、周囲の人たちは夜遊びをやめ、しっかり貯蓄をして生活をしていた。それに気が付いたときに、こういった自己反省に関する疑問・矛盾が生じる。もっとしっかりとして、貯金をして、親孝行をしたいと思うことで、自分の価値ある時間やおカネの使い方を正すことができる。

これら２つの社会的責任、自己反省などは、誰かが社会的責任を負った生活をしている、自己反省しなければならないような行動を戒めるような生活を送っている人がいる。こうした規範できる人たちの存在が、私たちに良い影響を与えてくれる。

こうした良い影響を与えてくれる存在を大切にしなければならない。もし、あなたが麻薬に手を染めたとするならば、誰かがあなたに麻薬を勧めなければあなたは麻薬という存在と関わることはない。それが友人なのか、或いは恋人なのか、芸能人の麻薬に関する情報を見ても、とても身近な存在が影響していることは明々白々である。

身近な存在で、良い影響をもたらす人間との付き合いを重視し、その人を大切にする必要があり、また逆に悪影響しかもたらさない種の人間とは付き合わないことを徹底することが重要なのは、もはや言うまでもない。

また、私たちには、テレビなどのメディアも影響を与えてくる。良い意味では、上記のような大震災のボランティア精神、痛みを分かち合う精神を刺激してくれて、寄付をしたり、震災に遭った地域の復興を願ってその土地の物産品を購入したりするきっかけを与えてくれた。非常によいきっかけだ。

しかし、悪い影響で言えば、青少年のテレビ暴力シーンへの接触量と暴力行為の経験との関連を見ると、テレビ暴力シーンへの接触量が多くなるほど暴力行為を経験している者の割合が多くなっている[i]というような間接的要因もあれば、テレビのニュースのコメンテーターなどで適当なことを有識者ぶって話をしている割にはその根拠が薄く、しかも間違った情報を流して直接的要因として影響を受けることもある。

例として挙げれば、福島第一原子力発電所から大量に放出された放射性物質の件では、かなり専門家と呼ばれる有識者の方たちの意見が分かれた。そして、こうした不透明な情報が入り組んで報道されてしまったことがきっかけとなり、風評被害が広がり真っ当な商売をしている方たちが苦労をされている。

こうした情報に対する自己防衛も価値組には必要だ。価値観は影響を受けやすい。良い方向への影響に対してはオープンに、そして悪い影響に対しては、自己防衛することが求められてくる。きっかけを与えてくれる存在を大切にして、良いきっかけを与えてくれる人を自分の傍に呼び寄せなければならない。

[i] 青少年とテレビ、ゲーム等に係る暴力性に関する調査研究http://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/tv/tv.htm

11　追われる立場から追う立場へ

価値組の行動では、「追われる」ことよりも、「追うこと」が重要なポイントになる。

「明日はあれやんなきゃだ、次はこれやんなきゃだ」と何かに追われているような毎日では、ゆとりが生まれることも少ないだろう。

疲れ切ってしまうと、生活に余裕がなくなる。時間的余裕も、精神的余裕も。いつも張りつめた緊張感の中では、なかなか人間の価値観は有意義に働かない。あなたが、あなたらしく生きるためには、誰かに追われていてはいけない。あなたの夢や目標をあなた自身が追わなければならないからだ。

そのためには、自分だけの空間を作ることを心がける。できるだけ、「癒し・ヒーリング」といった要素が含まれていることが望ましい。お風呂でもいい。香りのよい入浴剤を使い、1日の疲れをお風呂に浸かりながらゆっくりと癒す。そして、もし何かに追われていたのなら、追う立場に方向転換できるように、疲れをリセットすることが求められる。

この空間は、あなたの価値観で判断をして欲しい。例としてお風呂を挙げたが、近所のカフェでもいいし、気の許せる友人が集まる居酒屋、見晴らしのいい公園。気持ちをリフレッシュする場所を見つける。空間といっても、場所でもいいし、時間でもいい。あなたが、あなたらしくいられるために、常にリセットをかけることを心がけてほしい。

時間的にも精神的にも余裕がなくなると、「きっかけ」すら見落としてしまう危険性がある。すぐそこに本来やるべきことがあったのに、見過ごしてしまう。これでは、価値ある時間をただ浪費してしまう結果に陥ってしまいかねない。

また、「追われること」と「追うこと」は、表裏一体で、コインの表と裏。本当は、夢や目標に向かって突き進んでいたはずなのに、いつの間にか自分がその夢や目標を達成しようと思うばかりに追われるようになってしまったら、方向性を失いかねないし、日々の生活が嫌になってしまうかもしれない。

あまり急ぐ必要はない。あなた自身のペースで「追っている」と認識しながら前へ進んでいくといい。せっかく夢を描いたのに、せっかく良いきっかけで進むべき道がわかったのにもかかわらず、それを不意にしてしまうのは、この「追う」、「追われる」の違いが自分自身の中で区別がつかなくなったとき。

ここは、とても価値組にとって重要な立ち位置であるからこそ、見つめなおすという行為が必要となってくる。

12　ムダを知る

人生、生きているとムダなことが非常に多いことに気が付く。人生を生きていくうえで、ムダなことは一切ないという人もいるが、果たして本当だろうか。

毎月の支払で、ムダは本当にないのだろうか。私は、「節約生活応援館」というサイトを運営しており、節約コンサルタントをしているが、お客様からご依頼を頂いて、家計簿の診断をさせていただくと、ムダは想像以上に多い。特に、同じ効果のものに対して、同じ内容で、高いお金を払っている場合、ムダ以外の何物でもない。

国の事業仕分けが開かれたことは、多くの国民も知っていることだ。そしてメディアでは、それが連日取り上げられて、民主党の蓮舫氏などは一躍時の人となった。しかし、その効果はどうだったのだろうか。

msn産経ニュースの2011年12月25日付の「蓮舫氏、「仕分け」の提言ことごとく無視」という記事[i]をご紹介する。

> 民主党政権の一枚看板だった「仕分け」がその使命を終えようとしている。１１月下旬に実施した提言型政策仕分けの「提言」は、２４日に閣議決定された平成２４年度予算案でことごとく黙殺される残念な結果に。１４日には民主党に行政改革調査会が設置された。仕分けはその存在意義すらなくなりつつある。
>
> 「仕分けの女王」は現実から目を背けようとした。
>
> 「提言を極めて真摯（しんし）に受けとめてもらった」－。蓮舫行政刷新担当相は２２日の記者会見で、前日の診療報酬の改定結果をこう評価したが、現実は厳しい。
>
> 仕分けの提言は診療報酬本体の据え置きか抑制を求めていたが、結果は０．００４％プラス。財務・厚生労働相間の折衝風景は例年と何ら変わらず、提言をかえりみた気配すらない。
>
> 携帯電話の電波を割り当てる際、入札で通信会社を選ぶ周波数オークション制度への提言も無視された。仕分けでは、来年予定される携帯電話用の電波割り当て から同制度を採用するよう求めたが、総務省は来年の審査方法を従来どおりと決定した。総務省は同制度について、平成２７年の実用化を想定する第４世代携帯 電話用からの採用を決め、通信会社もそれを前提に事業計画を立てているため、「提言はそもそも無理筋」（政府高官）だった。
>
> 独立行政法人 改革でも発言力の低下が避けられない。政府の行政刷新会議は１０２の独法を効率的な組織形態にすることを目指し、１３日にも分科会で結論をまとめる予定 だったが、中止に追い込まれた。翌１４日に初会合を開いた党の行革調査会も独法改革を議論することになったからだ。
>
> 政府高官は「調査会におうかがいを立てなければならない行政刷新会議こそ無駄」と話す。「仕分け」が仕分けられる日も近い。

結局、民主党が大々的に持ち上げて開催した事業仕分けだったが、その提言は実際の政策に取り入れられることはなかったということになる。何のパフォーマンスだったのだろうか。

また、事業仕分けは、その役目を完全に終える。同じくmsn産経ニュースの2012年1月20日の「行政刷新会議廃止へ　新組織設立に向け次期国会で法案提出」[ii]という記事で報じた。

2009年の11月にスタートしたこの事業仕分けは、そのホームページ上発表している総経費、約1億2500万円[iii]をムダ遣いしたということに過ぎない。

こうしたムダを見つけることは非常に重要なことだ。既に説明したとおり、入ってくるおカネの量で勝負をしない代わりに、おカネに価値を与えて使うことは価値組にとっての本位だとお話をした。であれば、当然ムダは削減すべきであり、有意義におカネを使うべきだ。

また、時間のムダも十分に理解しなければならない。時間にも限りがある。有意義に使わなければもったいない。

例えば、昼時の銀行ＡＴＭに長時間並んで振込みをすることを考えるのであれば、インターネットバンキングで振込みをしたら待ち時間もなくすぐできる。また、欲しい本を探すのに、今まではあっちの本屋さん、こっちの本屋さんと何店舗も捜し歩いていたのが、インターネットを使えば、すぐに探せて、最短翌日手に入る。このようにインターネットの普及により、時間を有効活用ができる時代に入った。ムダのない最低限の時間で物事を済ませることができるようになった。時代の恩恵は受け入れたほうがよい。

「本屋さん巡り」が好きな人もいるだろう。実際に本を手に取って、少し読んでみて、手に入れたい。そういった時間が、自分にとって有意義である場合は、それを実行することをお勧めする。

また、こうした近代的な恩恵を捨て、半自給自足の生活を送る人もいる。時間のムダだと思われていたことが、その人たちにとってはとても貴重な時間となり、暮らしにゆとりを与えている。その人たちにとっては、近代的なものこそムダなのだ。

ムダというものは探し始めるとキリがない。ムダを見つけるためには、価値のシフトを行うことが一番効果的な行為だ。それまで価値があったものがムダなものとして分類されるだろうし、ムダだと思っていたものが本当は価値があるものかもしれない。価値観はそういった意味合いでは、ムダを洗い出す仕分け人といっても過言ではない。物事の本質を知らなければ、仕分けはできないし、物事の本質を知っているからこそ、ムダがわかるのだ。

---

[i] http://sankei.jp.msn.com/politics/news/111225/plc11122520220008-n1.htm

[ii] http://sankei.jp.msn.com/politics/news/120120/plc12012008020003-n1.htm

[iii] 行政刷新　http://www.cao.go.jp/gyouseisasshin/index.html　125062211円

13　価値シフトを行う

価値シフトには少し触れたが、少し視点をずらすだけで物事の見え方が変わる。価値観を最大限に発揮して、物事の本質を見極めた時に、それが本当に自分にとって意味があるのか、必要なものなのか区別ができるようになってくる。

　よく物事に熱中しすぎるがために、周りが見えなくなっている人に対して、「冷静になれ」、「落ち着け」と言うのは、価値シフトを促す行為である。

　例えば、あなたが強いApple信者だったとする。「iPad」の新製品は、どんなに並んでもいち早く手に入れ使ってみたい。そのためには、新しい「iPad」の発売日の2日前からアップルストアの前に会社を休んでまで並ぶこともあるだろうし、年に1回新しい「iPad」が発売されるのであれば、それを購入するための資金を年間通じて積み立てなければならない。或いは、一括で払うこともあるだろうし、クレジットカードで分割やリボ払いにすることもある。こうした人の欲求を制限することは、価値組には許されない。もし、あなたがApple信者でない場合、こうした人の価値観は、「どうしてそんなにこだわるのか」と不思議でならないと思う。しかし、その人にとってみれば、それが全てであり、それにこだわるというステキな人生を送っている。もう少し価格の安いタブレット端末がありますよと言っても、まったくその提案は通じない。

　また、お米を例にとっても、「魚沼産コシヒカリ」から「あきたこまち」、私の地元埼玉県で言えば「彩のかがやき」など、ブランドや産地などで味わいや風味などが異なってくる。新潟県民にとってみれば、恐らく「あきたこまち」よりも「魚沼産コシヒカリ」を支持するであろうし、秋田県民からすれば、「あきたこまち」が一番うまいと思うかもしれない。ブランドそのものよりも、地元を愛するという地元愛が、強く現れた結果だ。

　しかし、世の中にはこうしたブランドの違いが顕著に影響しない分野においても価格が違うものが多くある。例えば、あなたが手紙ではないA4サイズのチラシを同じ県内の人に明日届けたいと思い、速達で郵便を出したとする。定形外郵便なので郵便代は120円。速達代金が270円なので、合計390円の支払いをする。しかし、ヤマト運輸のメール便速達で出せば、180円で済む。書類を送るのに、「私は、郵便局が大好きだから値段が高くても郵便局を使いたい」と思う人はあまりいないと思う。もし、そういう方がいらっしゃればその方の価値観がそう動いているので、是非高い料金を支払って頂きたい。そう考えるとブランド力というものは、恐ろしい。

　こうしたブランド力を覆す唯一の力は、価値シフトである。

　仮に、あなたがApple信者だとする。Apple社の発売するものはすべてに目を通し、気にったものは手に入れないと気が済まない。それがある日突然、Apple社のモノに興味関心を示さなくなったとする。果たしてあなたの中でどのような心境の変化があったのだろうか。

　更に限定するならば、タブレット端末「iPad」は発売されるたびに購入をしていた。それが、新しい端末が発売されたのに、もう買わないとしたら、それはなぜだろうか。

いくつかの回答が得られそうだ。

「他社製品に魅力を感じた」、「タブレット端末自体に飽きた」、「結婚を契機に自由に使えるお金がなくなった」とその原因は掲げればキリがない。しかしいずれの場合においても、熱心なあなたが「iPad」を購入しなくなったのは、「iPad」の新製品が発売されたら購入するというのが「当たり前」だと思っていた価値観が変わった証拠だ。価値観はその時点でシフトしている。他社の製品に価値を見出したのかもしれないし、そもそも新製品を買い続けるという行為に価値がないと判断したのかもしれない。また、結婚や生活環境の変化が及ぼす価値観の大きなシフトが行われたのかもしれない。だが、もしあなたが「ものすごく熱心」な状態であれば、このような価値シフトはできたであろうか。「冷静になる」、「落ち着く」といった行為が存在していたはずである。

実は、普段の生活でもこの「冷静になる」、「落ち着く」といった行為は、とても重要だ。ここまで話をしてきたとおり、「きっかけ」もそうであるし、「ムダ」を見つけることもそうだが、「当たり前」と思っていることを見直すことで価値観は研ぎ澄まされる。

あなたが普段何気なくしている行為、例えばあなたが専業主婦だとする。そして子どもが2人いて、ご主人と子どもたち毎朝起きてくる前にあなたは起床し、朝食とお弁当を作り、そして3人を送り出した後、掃除、洗濯などの家事を済ませ、買い物に出かけ、夕飯の準備をする。忙しい毎日だが、深夜にCS放送を録画したアメリカの連続ドラマを観るのが日課だ。そういった日々を過ごす間に月日は流れ、十数年経ったとき子どもたちは大人になり、社会人として巣立っていった。そのままご主人だけは家に残り、それでも毎日朝食やお弁当の用意、そして家事や買い物をして夕飯の支度をするという当たり前の生活は続いた。数十年の歳月が流れ、ご主人が定年退職する日までそれが続いた。専業主婦のあなたとしてみれば、ごくごく当たり前の生活で一生懸命に頑張ってきたと自分を褒めた。

ご主人はとても優しい人で、あなたがアメリカの連続ドラマをいつも観ていいたことを知っていて、今まで専業主婦として家庭を切り盛りしてきたあなたにご褒美として、アメリカのドラマの舞台であったハリウッドのあるアメリカ、カルフォニア州のロサンゼルスへの旅行に招待した。あなたは嬉しくて、嬉しくてたまらなくなり、出発の1ヶ月前から地元の英会話教室に通うこととした。現地で多少の日常会話程度の英語くらいは喋りたいからだ。こうして旅行に出掛け、夫婦水入らず楽しく現地を滞在し、帰国した。英会話教室の効果があったのか、手にトラベル英会話の本を手に取りながら、一生懸英語を使ってなんとなく言葉は通じた気がした。とても満足のいく旅行だった。

ここまでの内容で、あなたには何の落ち度もないし、責めに帰すこともしていない。ところが、この旅行で唯一後悔したのが、もっと早くから英語を勉強しておけばよかったという点だ。

人は過去には遡って何かをすることはできない。あなたが何気なく観ていたアメリカの連続ドラマだが、もしその時に価値シフトを行なっていたらどうなっただろうか。ドラマを字幕なしで観たいと思えば、あなたは英語を学びたくして仕方がなくなる。それがきっかけとなり、英語を学ぶためにはどうしたらいいのか考える。自分の教養のためのお金の余裕はない。そしたら、あなたは昼間だけできるパートの仕事をしていただろうか。少なくとも、あなたには可能性があった。価値シフトを行うだけで、視野が広がり、可能性が大きくなる。

将来の可能性を見出した時に、それに向かって進んでいこうと決めたなら、あなたの価値観は刺激されたと言える。価値組の行動では、「追われる」ことよりも、「追うこと」が重要と述べた。価値シフトは、「追われていない状態」＝「何もしていない状態」からも、「追うこと」へと自分を導いてくれる。研ぎ澄まされた価値観は、あなたの未来を変えることができる。

14　自立して生き抜く

意外かもしれないが、自立とは、言葉で言うのはたやすいが、難しいことである。自立とは、どこまでを自立とするのかにより、まったくもって定義が異なってくる。

　自立をするというのは、狭義で言えば親からの独立である。親のすねをかじって生きてきた未成年の時代から、成人して社会人として世に出て、更には実家を出て一人暮らしをするといったことは、自立として素晴らしいことだ。

　しかし、自立とは非常に難しい。

　自立を定義しなおそう。自立を辞書で調べる。大辞泉では、「他への従属から離れて独り立ちすること。他からの支配や助力を受けずに、存在すること[i]」とある。特にこの、「他からの助力を受けずに、存在すること」に着目をしてみよう。

　例えば、これを執筆している今日のテレビのニュースの中で（執筆日2012年3月26日）、夏の電力事情でインタビューを受けていた方お二人のコメントをご紹介する。

「計画停電はちょっと困りますね」

「電力不足は困りますね。かと言って値上げも困りますね」

　何を言いたいのかが全く分からない。個人が自立していない証拠ではないだろうか。困るのであれば、何を対策としてすべきなのか、まったくもって自分で考えていない。結局、政府が何とかしてくれる、何とかしないのは政府の責任だ、政府が対応すべきで私たちは言われたことをするだけといった具合のコメントが多い。

　これらのコメントは今に始まったことじゃない。もう、ここ何年も、いや何十年も結局は、何かしらのトラブルがあった場合に、国民は政府に助けを求めてきた、或いは政府が対応して当然だという意識のもとで国民は生きてきた。そして、国レベルの問題で個人が迷惑をこうむるのは困るといった当事者意識に欠けている。

　国民は、国からも自立しなければならない。少なくとも価値組であれば、そうすべきである。

　なぜか？

　結局、最後は政府が面倒を見てくれると思えば、リーマンショックで破たんした大手企業の幹部が巨額の

ボーナスをもらっていた「負けた勝ち組」ことと同じ価値観で行動するようになってしまう。彼らは、自分勝手なマネーゲームを繰り返し、自国のほかの国民や、その他の関係諸国にまで迷惑をかけたが、結局米政府が公的資金を投入し助けられた。また、ヨーロッパの財政危機の場合において、例を挙げれば、アイルランドの破たんが騒がれた際にも、結局アイルランド政府はアングロ・アイリッシュ・バンクに巨額の税金を投入し、破たんの危機を救った。結局、政府が尻拭いをするようでは、経済もそして国民も自立できていないに等しい。

価値組になった国民は、価値のある国を創り上げる。

もうすでに、ヒントは出ているはずだ。一生に入ってくるおカネの量は限られている。だからこそ、入ってくるほうの量で勝負をせずに、その使い道やそれを得るための家庭である仕事の内容の充実度が、価値組には欠かせない要素だと述べた。

ということは、自分の仕事で稼いだおカネの一部は、個人であれば、所得税、住民税、消費税など様々な税金が課せられて、国に納付しなければならない。この税金は、誰のものなのか。もちろん、私たち国民のものである。その使い道も、当然価値あるものとして使われなくてはならない。価値組は、そうした2次的な支出に関しても価値を見出さなければならない。

納付した税金はどのようにして使われるのか。年収１千万円以上のサラリーマンの家庭に子ども手当は必要なのか。また、銀行に１０億円蓄えがある人は、年金額が本当に少なくて困っている人のために、年金を受け取ることも辞退することができるのではないか。

価値組は、そこまで想いを馳せるべきである。

よくこの話をすると反論が来る。真面目に貯蓄したのがバカみたいじゃないかと。否。現役世代が、必死こいて社会保険料の支払いを続けてワカモノ一人がお年寄り一人を支える肩車時代になったとき、今のワカモノの負担額はものすごいことになる。しかし、こういう状況になるのはとっくの昔にわかっていたことである。

なぜ、その前に消費税を上げる法案に今の年配者の方々は反対し続けてきたのか。バブルの時代に浮かれずに、きちんとした「税と社会保障の一体改革」をして頂いていれば、こうはなっていなかったはずだ。こうお話をすると、政治家が悪いという。しかし、消費税を上げない政治家を選んでいたのも自分自身である。責任は転嫁できない。

そうすると官僚が悪いという。否。官僚が年金を使いこんで箱モノを立ててきたとき、その政権の責任者は誰が選んでいた。当然、国民である。そういうと、じゃあ総理大臣を選ぶのは、国会議員なんだから国会議員が悪いという。そして、先ほどの政治家が悪いという理論へとルーピングする。

価値組と同じ感覚で政府が動いた場合には、当然、財政の支出のムダを徹底的に削減する。当然、補助金や政府支出が減るわけだから、それの恩恵を受けていた人は苦しい生活を強いられることになる。

「そんなんじゃ生活が成り立たない。」

　既得権益で生きてきた人間は、既得権益がなくなればそれほど弱いのだ。自立ができていない証拠だ。特に、既得権益に保護され続けてきた分野の人たちは特にそうなってしまう。

　年収が40兆円しかないのに、支出を年間90兆円もする国なんてありえない。もし、国民が90兆円もの政府支出をして欲しいのであれば、90兆円納税するしかない。それが嫌なら、もう価値組ならわかっているはずだ。政府支出40兆円で生き抜くしかない。そして、その40兆円をどのようにして価値ある使い方をするのかが、求められてくる。

　ただし、政府は当然税収を上げる必要がある。困っている人たちを助けるのに、おカネがかかれば、それに見合った税収が必要だ。ＧＤＰを押し上げるための政策が常に必要となってくるだろう。

　国から自立する価値組の人たちは、「他からの助力を受けずに、存在すること」を価値のある生き方だと考える。

　電力が足りなく、原子力の安全性が確認できないうちに原子力発電所を再開させないことに価値があるなら、節電をすればいい。もし、電気に価値が大きく依存してしまっているのであれば、原子力を再開すればいい。ここまで大きな問題は、もはや国民だけにしか決められないことだ。国民一人一人が自分たちで決めてみよう。そして、国民一人一人が自分たちで責任をとってみよう。価値観は、自分の最大の意思決定機関だ。

　電力の値上げに関してもう少し踏み込むと、原油価格が高騰しているのには、様々な要因がある。イランの核開発問題で、イランへの国際社会からの圧力がかかり、ホルムズ海峡をイランが閉鎖すると言っているので、原油が産油国から運び出されないのではないかという懸念から原油価格が上昇したり、また最近円安になってきたりしているので、相対的に原油価格も上昇する。

　いずれにしても、「計画停電はちょっと困りますね」、「電力不足は困りますね。かと言って値上げも困りますね」と言っているだけでは何も始まらない。現実問題、この現状と国民も向き合わなくてはならないのだ。すべてにおいて当事者になることが価値組には求められている。

　もはや、国は国民を助ける政策をやめるべきである。援助されていたら、いつまでたっても、国民は自立しない。何かあったら、政府に助けを求めてくるようになる。

　国民を助ける政策をやめた場合には、どんな政策が必要なのか。

答えは簡単である。問題を解決する政策をしてくれればいい。

そうすれば、価値組として自立したあなたは、国からの助力を必要とせずに生き抜くことができる。こうして、極めて国民が自立しあえる国家において、初めて残りの国家予算が、本当に困っている人に行き届くようになる。

最初に説明したはずだ。私たちは、残りの99%にはならない。常に、自らの価値観を基準に物事の本質を見極めて行動しなければならない。政府に頼るだけの個人は、自立していない個人。価値組であればできるはずだ。価値シフトを行ってみよう。国内にある様々な問題を、政府の問題から、自分たちの問題へと価値観や問題意識をダイナミックに移転してみよう。

当事者になることで、物事の本質を見極めようとする価値観は最大限発揮されるのだ。

簡単に言ってしまえば、あなたの価値観は国がこうですと言って決められるものではない。あなたの価値観はあなたしか持ちえない。価値観には自立性が必要不可欠なのだ。そして、その価値観の集まりが国家である。

---

[i] Yahoo!辞書　http://dic.yahoo.co.jp/dsearch?enc=UTF-8&p=%E8%87%AA%E7%AB%8B&dtype=0&dname=0na&stype=0&pagenum=1&index=09411900

15　未来を変える

　ここまでの流れで、なぜ価値が必要なのかという自然現象のような人間のバックボーンから、価値組には価値を見出す力の源泉である矛盾や夢といったきっかけ、またそれらを構成する人間関係から、目的意識、ムダを知るといった価値観を養う力を身に着け、更には価値シフトを行い、物事の本質の見極め方を学び、そしてそれらを統合して国レベルの事柄にまで足を突っ込み、価値観の自立性を知った。

　ここまでくれば、あとはもう少しで価値組の神髄を極めることができる。そう未来を変えるのだ。今のあなたは、過去の集大成。良いこともした、悪いこともした、その比率がどちらかに傾いていたとしても、今のあなたは、今のあなた以外の何者でもない。

　価値組に入って、これからの人生どう歩んでいくのか。目を閉じて考えてみよう。目を開けた瞬間から、未来は始まる。

　予測不可能な未来。予測可能な未来。どちらも、未来には相違ない。しかし価値組として生きていくうえでは、最も重要なのは、予測可能な未来を見つける事だろう。

　なぜなら人は予測可能な未来であれば、それをコントロールできるからである。

　予測不可能な未来は、突然であったり、そんな予感はしていた程度の情報しかなかったりしたが為に起こる、環境の変化であるに違いない。例えば交通事故死や、バブル崩壊など、否応なしに、予測不可能な未来は訪れてくる。東日本大震災もそうだった。予測不可能な未来を探し続けても、光ある未来の影ばかり見ながら生きていくことになる。

　未来を予測するには、まず目標を立て、そこから逆算して、今いる自分まで道を造ればいい。将来の自分像を確実に想像できれば、回り道なんてしなくても、その道を歩むだけで、未来の自分はそうなっているからである。

　ただ自分で敷いたレールはかなり整備されていない。開拓もされてないただの方向性だけなのだから。そのレールを周りの環境に合わせ、少しずつ道を切り開いていかなければならない。突然、予測不可能な未来が、あなたの予測した未来を変えることもしばしばある。しかし、そのたびに、新しい新たな予測可能な未来を探し出すことは、それまでのあなたが培ってきた経験で、軌道修正ができるはずである。

　予言が当たらないのは、その方向性を予言者自身がその雑草だらけの草道を耕せないからである。つまり未来とは、その人本人にしか切り開くことができないものである。

　何を見据えて、どう判断するのか。もうここまでくれば、説明も不要だ。

16　価値を共有する

最後に、価値の共有についてお話をする。ここまでの中で、あなた自身が決断し、あなた自身が責任を取り、あなただけの、あなたらしい未来へと進むために、価値観を存分に発揮してほしいことはお伝えした。

　価値の共有とは、決して価値観の押し付けではない。同じ価値観を持ち合わせている仲間を見つけて欲しい。それがあなたの使命とも言える。

　価値組は、価値観を重要視する。その考え方を、あなたの周りの人にも広めてほしい。なぜなら、冒頭にお話ししたようなマネーゲームにうんざりしながらも、日々つらい生活を送っている人がいるからだ。

　マザーテレサの言葉で、愛の反対語は憎悪ではなく、無関心だという言葉がある。あなたが、誰かが苦しんでいることに無関心であることは、至極冷たい行為となる。

　決して、宗教のような伝道師になってはいけない。信仰とは、それぞれの心の中で決めればいいことであり、価値組が口出しをすることではない。心の弱い人間であれば、宗教でなくとも、占いやちょっとした出来事で心を奪われてしまう。真相はどうであれ、芸能人と占い師の関係をニュースで連日報道していた通りだ。

　他人の価値観を侵害することは、どのような方法でも許されるものではない。しかし、その人の価値観を最大限引き出してあげらるのも、価値組であるあなたの役目である。勝ち組、負け組というような分け方を好む人間は、他人の価値観を刺激することは永遠にない。

　金儲けって楽しいぜ、人生の勝ち組になって世の中を見返してやろうぜというハングリー精神までは否定をしない。しかし、それによって得た金銭の多寡で他人を負け組と決めつけるような行為は避けるべきだ。

　価値は、実は共有することによって切磋琢磨される。今までこれで十分だと思っていたことが、次へのステップにつながるようなことは、価値の共有がもたらした未来への光だ。

　例えば、あなたが健康に生きることに価値を見出したとする。煙草をやめ、お酒もやめ、健康的に生きていることに満足する。ただし、価値の共有をしない限り、努力をするのはあなただけになる。もし、あなたが、家族と健康に生きることの価値を共有したらどうだろうか。食卓に並ぶ食材は健康志向のものになり、普段あなたが料理をしないのであれば、料理を作ってくれる人が健康という価値のもと料理を作る。しかし、もしあなただけが健康に価値を見出して、健康に価値を見出していない家族に健康的な料理を作ったとしよう。家族はその価値観を共有していない。そうすると、シンプルでそっけない料理だと非難され、結局不健康な食事でも作らなければならない。そして、あなた一人が健康的な食事をするわけにもいかず、結果的にあなたの健康に生きようとする価値観は薄れてしまう。

これでは、せっかくの研ぎ澄まされた価値観が台無しになってしまうのだ。価値を共有していれば、ともに達成できることもあるが、価値を共有していない仲間とは何もなしえない。あなたひとりで頑張っていけることがあったとしても、それには限界がある。

プロ野球のイチロー選手は、ものすごい努力家だと聞いたことはないだろうか。彼は、練習熱心で、しかも試合という本番の場で結果を残している。彼の価値観はどこにあるのだろうか。彼しか知らないことかもしれない。しかし、野球が好きなファンがいて、彼はその価値観を初めて発揮することができる。または、野球をするという価値を持ったその他のプロ野球選手がいなければ、打席に立つこともないし、守備についても、試合なんてそもそもないのだから、ボールなんて飛んでこない。

類まれな天才は、その価値を知る人がいて初めてその価値が最大限に発揮される。ビルゲイツがウィンドウズを開発して世界で販売して、巨額の富を得た。勝ち組じゃないか。しかし、彼の作ったウィンドウズに価値がなければ、ここまで世界に広まりはしなかった。つまり、彼は価値観を売ったのだ。

こうした商売上の価値共有は、様々な場面で行われる。ディズニーリゾートであれば、あの夢のような空間の共有。これは、運営者である企業側もそうであるし、企業に雇われた従業員、そしてお客様自体もその一員だ。ディズニーなんてつまらないという友達と一緒にディズニーランドに行っても、結局つまらない一日を過ごしてしまう。たとえ、たった一人の従業員がだるそうに笑顔もなくそこにいたら、あなたの満足度は下がってしまうだろう。このように、価値は共有してこそ、最大限に効果を発揮することは珍しくない。

さあ、価値組として今から新しい未来へ向かって一緒に歩んでいこうではないか。そう、これも大切な価値共有だ。

最後の法則

ここまで述べてきた16個の法則を実践すれば、あなたは立派な価値組になることができる。そして、最後の法則を述べたい。

　ここまで書いてきたこと、つまり読者であるあなたに読んでいただいたことをすべて「本当に正しいのか」や「この16の法則だけで足りるのか」など、見直しをして欲しい。言うまでもなく、あなた自身の価値観で。

　もしかすると、これ以上に何かしらの法則があるかも知れないし、もしくは私の考え方に誤りがあるのかもしれない。それは、きちんとあなたの価値観で軌道修正をして欲しい。

　最後の法則とは、「これで終わりだ、これで完成だ」と思わないことである。

　私にとってみれば、正直ってここまできちんとした「本」という形式で書物を残せたのは初めての経験である。そして、それを公開することになった。しかし、書き終えて終わりということはない。この書物は、私自身も書き換えていく必要があるだろうし、もちろんお読みいただいたあなたにとっても、読み替えていただく必要がある。

　この本を書き終えて、お恥ずかしい話、私は人生で初めて達成感を感じた。そして、またこの最後の法則に辿り着いた。本当は、この最後の法則の章は当初の書き始めの段階で構想になかった。書いていて、自分で気が付いたことだった。

　私は、浅はかな知識でこれを書いているかもしれない。「あ〜、あのバカがまた適当なこと言ってるよ」と批判されてもおかしくない。しかし、何かを表現して、誰かに伝えるという行為は、決して間違ったことではないと、私は思う。これを公開してお読みいただき間違っているとお感じになられ、ご指摘いただける読者の方がいらっしゃれば、この上なく嬉しい。

　この本は、「ONE PIECE（尾田栄一郎著）」のような本ではない。ルフィーがいて、海賊王になるといった世界を描いた物語ではない。また、「人生がときめく片づけの魔法（近藤 麻理恵氏著）」のように、特定の行為に関する本でもない。個人的には、ルフィーの将来がどうなるのか楽しみでならないし、またときめくかときめかないかで片づけをするといった素敵な価値観を記載して、誰かのお役に立てるような本でもない。価値観は、人それぞれ違うのだから、この本に書いてあること自体、すべてをひっくり返されてもおかしくはない。この２つの書物のように、称賛を受けるような物語や方法でもない。

　だからこそ、「これで終わりだ、これで完成だ」とは、はっきりって本を出す前から思っていないと断言しておく。それが、お読みになったあなたに、最後まで疑問や矛盾を残す最高の手段だからだ。

おわりに

ここまで、価値組に関する様々な視点から価値観を見直す方法や手段、そして問題提起をしてきた。

　資本主義社会では、「資本を投じる人」がいて、初めて資本主義が確立する。株式会社であれば、株主がいなければ、会社はそもそも成り立たない。

　そして、ほとんどの人が、株主ではなく従業員として働いて、労働の対価として賃金を受け取っている。一部の大金持ちが、株主になって経営者（社長さん）に経営させて、従業員を雇い労働させ、利益の配当で儲けを得ている構図は、資本主義社会である以上不変的な構図だ。

　価値組は、その構図の中で勝ち、負けではなく、あなたがあなたらしく生きるためのグループだと既に説明したとおりだ。

　私自身、うつ病になって苦しい時期を味わってきた。正直、大変申し訳ないが、私の主治医に聞いてもらえるとわかると思うが、ここでは言えないようなことも生きていくうえであった。

　お風呂の話が出てきたが、実はこのお風呂に入るという行為自体、まったくできないこともあった。シャワーを浴びているときに、パニック症状になり救急車で搬送されたことがあり、恐怖のようなものもあった。また、今は一緒に暮らしてはいないが、月に1度会える娘たちと入るお風呂は、私にとってとても幸せな時間だった。うつ病を発症してから、日々仕事で忙しく心休まる時のなかった私にとって、唯一楽しかった。それが、急になくなってしまったことから、お風呂に入るたびに、その想い出が強く出てしまい、そのうちお風呂というものを敬遠した時期があった。

　今は、だいぶ良くなってきていて、お風呂にも入ることができる。しかし、しばらくお風呂を敬遠してきた私が、お風呂に入ったとき、私は、大声でこう叫びたかった。

「みんなみてくれ、俺は風呂に入れたぞ」と。

　普通のこと、当たり前のことが、状況によって全く捉え方が違うと知った瞬間でもあった。次第に、何のためにおカネを稼ぐのか、私の場合、「勝ち組」になろうとするタイプであったので、それに何の価値があるのか自問自答するようになった。

　しばらくして、中学の同級生たちと飲むことがあった。みんな不況で大変そうだった。頑張っても芽が出ないそんな奴もいれば、中学の時までかなりいじめられていて、なんでそんな笑顔で今を生きていられるんだと思う奴もいた。（ちなみに奴と呼んでいるのは、友達だから）

私は、自分がちっぽけな人間だと知った。

価値組という構想は、こういった私の過去の経験から生まれてきている。そして、それをいろんな人に伝えたいと思い、様々な価値観をお持ちの方々に公開することで、お読みいただいた方が、少しでも生きる勇気や「たとえ収入が変わらなくても」裕福ではないと感じながらマイナス思考で生きるより、価値ある生活をしているとプラス思考に転嫁して生きていくきっかけになることを望んでいる。

私は、東日本大震災で被災された方々のように、家もない、街もないという状況には陥っていない。なので、被災された方々からすれば、私の抱える悩みであったり、身体の不調であったりなどというものは、極めて軽微であると考えている。

そのため、これを今の時期に公開すべきかどうかも悩んだ。しかし、価値組とは物事の本質を自分の最高の意思決定機関である価値観で決断し、その決断に責任を持ち、生きていかなければならないということは、常に世に必要なことだと思って、公開することにした。

この本が売れるとか、多くの人に共感を得るとかそういったエゴのものに書いてはいない。たった一人でも価値組になるんだと思って、生活環境がもし変わることがあれば、それだけでいいと思う。この本は、その16の法則のうち、第16番目の価値を共有するという概念のもと書きおろした。

最後までお読みいただいたことに、深く感謝の意を表すとともに、価値組として、そして仲間として、明日に向かって共に歩んで行こう。

自立した個人として。